

東京芸術大学

我が国唯一の国立総合芸術大学として
世界的にも稀な3分野における世界水準の教育研究を実践

美術

音楽

映像

大学の有する芸術文化資源を最大限活用すべく
“オール芸大”体制により、
大学改革・機能強化を断行

Integration

芸術研究院【分野横断型研究(教員)組織】

3つの系(芸術表現学系・芸術理論学系・芸術資源学系)により構築

国際芸術創造研究科

【分野横断型教育組織(独立研究科)】

- ◆グローバル展開戦略の核となる新たな大学院組織
- ◆国際的視座に立ち、“創造”と“発信”を基軸に展開

グローバル化の進展に伴う芸術と国際社会との関係性や国内外の情勢変化等を踏まえ世界的にも評価の高い我が国の芸術文化価値や既に固有の存在として確立されている芸術諸分野の学術基盤を活かし、専門分化している芸術文化を横断的かつ有機的に結びつけながら、新たな芸術価値を創造し、国際展開できる先導的な実践型人材を育成

○世界水準にある芸術諸分野の連携・融合は世界的にも斬新な試み

○我が国固有の芸術文化力を活かすことで、世界オンリーワンの研究科を指向

Mission

アジアにおける
教育研究拠点として
の留学生受入

“上野の杜”
の国際拠点化
の推進

国際展開力・
発信力のある
先導的人材育成

我が国固有の
芸術文化力
を活かせる
人材育成

芸術大学における
先導的プロジェクト
システムの構築

産学官連携による
イノベーション人材育成

3つの専攻により構成

アート・パフォーマンス専攻

【平成28年度開設】

芸術と社会の新しい関係を
提案できる卓越した
パフォーマンス人材を育成

アート・イノベーション専攻

【平成31年度以降開設予定】

芸術と科学の融合による
新たなイノベーション創出を
牽引できる人材を育成

グローバルアート・プラクティス専攻

【平成31年度以降開設予定】

国際的プロジェクト実践を基盤に
新たな芸術価値を
創造できる人材を育成

大学院国際芸術創造研究科 平成28年度外国人招聘実績

○特別招聘教授

氏名	職等	期間	摘要
ブルーノ・ラトゥール	フランス生まれ。哲学者、科学人類学者、科学社会学者。パリ政治学院副学長。モダニズムの問題を科学史、文化芸術、社会学などの視点から総合的・批判的に検証し、新たな思考の枠組みを精力的に提案している。2013年ホルバーク賞受賞。	7月11日～7月16日	講義、講演会等
ジェームズ・タイソン	ロンドン在住。パフォーマンス・アーツの製作者、プロデューサー。アート・プロジェクト「インタンジブル・スタジオ」の共同創設者として、2014年「カーディフ国際パフォーマンスフェスティバル」をはじめ、パフォーマンスやその他の文化的な創作を手がけている。IETMインターナショナル/パフォーマンス・アーツ/ネットワーク顧問委員。	7月22日～7月26日	講義、講演会等
アンセルム・フランケ	キュレーター、ライター。「世界文化の家」ビジュアル・アート&フィルム部門ディレクター。ベルリン在住。	11月16日～11月21日	講義、講演会等
ジャネット・ピライ	2013年までマレーシアサインズ大学舞台芸術学科で教鞭をとる。1999年にペナンにおいて若い人のための芸術、文化、教育のプログラムを行うNPO法人「Arts-ED」を設立。現在はインディペンデント・リサーチャーとして、文化プログラムの持続性や、文化の生態系についての研究を行う。	12月3日～12月6日	講義、シンポジウム等
スニサ・ジャナモハナン	1999年頃からアートマネジメントに携わり、クリエイティブ・インダストリー、美術、舞台芸術、文学、映画、デザイン、アニメーション、音楽、文化遺産など幅広い分野で実績がある。現在はシンガポール・ラサール大学でアートマネジメントを教えながら、地域や社会に関与する芸術の実践について、アートマネジメントや教育普及の観点から研究を進めている。	12月3日～12月6日	講義、シンポジウム等

○ゲスト講師(非常勤講師)

氏名	職等	期間	摘要
グンヒルド・ボーグリー	コペンハーゲン大学 芸術・文化研究学部美術史・視覚文化准教授	6月28日	講義
ジェイソン・ウェイト	インデペンデント・キュレーター。英国。	7月12日	講義
ジュダ・スー	美術批評家、インデペンデント・リサーチャー。タイ在住。	9月9日	講義
マーク・スウェッド	音楽ライター。ロサンゼルス・タイムズ紙の文化部音楽担当。	10月7日	講義
ペドロ・イノウエ	グラフィックアーティスト、デザイナー。ブラジル在住。	11月14日	講義
アンドレアス・フィアツィガー	アート戦略コンサルタント。オーストリア在住。	11月18日	講義

○その他

氏名	職等	期間	摘要
マイク・フェザーストーン	ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ教授	4月9日	研究会
シルケ・ツイーマン	元ソニー・ミュージック マーケティング&PR担当責任者、元ベルリン芸術祭コミュニケーション部共同主任、現シルケ・ツイーマン・コンサルティング代表	5月10日	講演
アン・アリソン	米国・デューク大学教授	7月1日	レクチャー 討論者
ジャスティン・ジェステイ	ワシントン大学助教授	7月3日	シンポジウム
ジャネット・ピライ	マレーシア・インデペンデントリサーチャー	7月3日	シンポジウム
カン・ミュング	ソウル国立大学教授	7月3日	シンポジウム
倪昆	中国・キュレーター	1月27日～1月29日	展覧会・シンポジウム
ミティル・アンクリタヤー	タイ・写真家	1月27日～1月29日	展覧会・シンポジウム

大学

アートの領域でグローバルに活躍できる人材を育てるために、東京芸術大学は2016年4月、大学院に国際芸術創造研究科を新設した。理論だけでなく実践を重視し、「卒業後すぐに世界で活躍できる『文化実践者』を輩出したい」と研究科長の熊倉純子教授は意気込む。

昨年12月、東京・谷中にある彫刻家、平瀬田中氏の旧居宅から英語での会話が聞こえてきた。訪日したマレーシアの著名アートプロデューサー、ジャネット・ヒライ氏らと同研究科の学生が議論していた。テーマはアート活動をするNPOのメンバーが障害者施設で挑戦したアートパフォーマンスについてだった。

所属する学生は14人で、うち3人は中国、韓国、フィリピンからの留学生だ。美術、音楽、映画、演劇など様々な

東京芸大大学院 国際芸術創造研究科

外国人講師とアート作品について英語で議論する



に触れることができる。

同研究科のカリキュラムの特徴は、アートマネジメントとキュレーションのノウハウを実践的に学べる点だ。アートマネジメントは、芸術の作り手であるアーティストと受け手である社会をつなぐ活動プロジェクトの現場スタッフ

グローバル時代をひらく

芸術発信の担い手育成

分野を横断的に学べるため、多彩な専門を持つ学生が集まる。海外からのゲスト講師も迎え入れ、学生は講師と英語で議論し、世界の最新アートや調整まで担う。

を指す。公演や芸術祭などの企画や運営、そのための資金や支援の獲得、企業やNPO法人など利害関係者との連携

も体験している。東京都台東区の「谷中のおかつて」や、東京都足立区の「アートアクセス」など企画や運営に関わる。今年度の学生は、熊倉教授が携わる地域参加型のアートプロジェクトの現場スタッフ

キュレーションは、美術展覧会や企画展などのテーマを考え、コンセプトをつくり、間を選び、演出する。グローバルな社会に対し、芸術分野から新たな視点を提示する活動だ。最新の理論や批判も学識と国際感覚を併せ持った学生の育成を目指している。

(坂下曜子)

ビジョン 熊倉純子研究科長

東京芸大は文部科学省が国際化を支援する「スーパーグローバル大学」の一つ。国際芸術創造研究科は、国際競争力のある大学を目指す一環で新設された。日本にはアートマネジメントやキュレーションを学べる大学は他にもあるが、一番の強みは本格的な芸術家の育成を目指す、希少な環境の中で学べる点と。アーティストならではの発想をよく理解しつつ、アートを



混沌とした世界 人と人をつなぐ

どう社会に役立てるか考えられる点だ。

資本主義が行き詰まる先進国がある一方、高度経済成長期を迎える国もある。こんな混沌とした世界で、アートが人と人をつなぐ重要な役割を担う場面は今後も増えるに違いない。学生たちは行動力のある若者ばかりで頼もしい。海外の学生や芸術家とのネットワークをつくりながら世界に羽ばたいてほしい。

ほかに、フィールドワークや文献調査などリサーチ手法も習得。社会科学の基本を学びながら芸術と社会の関係を考えるプログラムも用意する。昨年7月には韓国でソウル大学との学生と合同ワークショップを開くなど海外事例も積極的に学んでいる。深い知識と国際感覚を併せ持った学生の育成を目指している。

学ぶ 磨く 育つ